（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2673000192		
法人名	特定非営利活動法人　エイチアンドイーグループ		
事業所名	グループホーム　あぐら		
所在地	京都府　長岡京市　東和苑　1番地の4		
自己評価作成日	令和2年4月7日	評価結果市町村受理日	令和2年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人　市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041　大阪市北区天神橋2丁目4番17号　千代田第1ビル
訪問調査日	令和2年6月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・家庭的な雰囲気を大事にし、職員と利用者が家族のような関係を構築できるようにしている。

・低所得者及び生活保護受給世帯でも利用可能な料金設定を維持し、開設当初より変更していない。

・利用申し込み順ではなく、その方の利用に際しての理由、緊急性その他諸事情を勘案して対応している。

・個別ニーズに応じ、細かな外出支援を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当該ホームは理念の中に掲げられているあなたらしさを大切に利用者の出来る事や力を活かせるよう一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいます。ホームのハード面を活かし、階段や段差等手引き歩行で一人ひとり支援しながら生活リハビリにつなげ利用者の下肢筋力を保ち、車椅子をなるべく使わない生活になるよう努めています。日々の関わりの中で聞いた趣味や馴染みの場所への外出希望があればマンツーマンや少人数で支援しており、食事についても希望に合わせた献立や調理師による食事作り、月1回夕食でイタリアンや和食のケータリングを取ったり、喫茶店に行く等食事が楽しめるよう支援しています。また離職も少なく馴染みの職員で支援にあたっており、管理者は日頃から職員の話を聞いたり、職員が思いを言える職場環境作りに努めています。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員会議等で折に触れ共有するようにしている。また、新しいスタッフには口頭で少しずつ周知するようにしている。	『「平安」と「安らぎ」そして「あなたらしさ」と共に』という独自理念の下日々の支援に取り組んでおり、職員会議の中で支援方法について意見が分かれる場合があればその人らしさの原点に立ち戻り話し合っています。理念はパンフレットに記載し、また新しい職員の入職時には理念に込められた思いを説明しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・最近になり一定認知されつつある。	地域に散歩や買物等に出掛けた際には声を掛けてもらえたり、近隣の子どもから猫を引き継いで飼う事になる等地域とのつきあいが徐々に出来ています。参加可能な利用者と一緒に自治会行事の敬老会や地蔵盆に参加し、また尺八やマジックショーなどの地域ボランティアの来訪が不定期にあり利用者と一緒に楽しみ交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議等を通じて発信するようにしているが、まだ取り組み度合いは低い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議に参加された方には担当者より細かい説明をし、そうでない方々には結果を郵送し質疑応答を受けるようにしている。	会議は2ヶ月に1回行い、家族や民生委員、自治会長、地域包括センター職員、市職員等の参加を得ています。会議では利用者の状況や職員の状況、身体拘束についての報告し意見交換をすると共に地域の困難事例の検討や古紙回収の依頼を受けたり、バス停設置等の議論等様々な地域についての話し合いを行い、ホームからも実際に地域の巡回をする等の取り組みも行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市町村の担当と顔を合わせることはよくあり、責任者は月に数回は市役所へ赴いている。	年1回運営推進会議に参加がありホームを知ってもらう機会があり、管理者は申請等があれば直接窓口に出向くようにしています。電話やメールで市からのアンケートに答えたり、注意喚起があれば守るよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・スタッフに対しては周知しつつあるが、現在支援が困難な方や危険行動が多い方については一部拘束している。状況や改善方針については運営推進会議などで周知しつつある。	身体拘束に関する研修は年に2回行い、身体拘束適正化委員会も3ヶ月に1回行っています。玄関の施錠や言葉掛けによる行動制止については危険等を除き行わず、椅子からの立ち上がり時は一緒に付いて行くようにしています。現在夜間のみ安全の為家族の了解を得てベッド柵を使用している利用者がいますが、使用の必要性について会議で話し合い少しずつ外している状況です。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・職員会議の際に研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・まだ取り組み方は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・締結時には原則本人とご家族を同伴の上署名捺印をお願いしている。改定時には文書により説明、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・そのように対応しているが、反応は鈍い。	日々の関わりの中で利用者の要望を聞いており食べたい物の希望があれば献立に取り入れたり、外出希望があれば少人数でドライブへ行くなどの支援をしています。家族からは訪問時に写真を見てもらい意見を聞いています。個別の要望が多くその都度対応し、また下肢筋力維持については生活リハビリの中で維持出来るように支援しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議等により機会を設けている	全職員参加の会議の際は管理者が職員から日頃から聞いている事を議題にあげ意見を出し合っています。管理者は個別でも話をする機会を設け、日頃から接しやすく話しやすい雰囲気作りに努めています。また空気清浄加湿器等必要な物品購入は職員に任せています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・長く職員が定着しているため、一定功を奏していると思われるが若干のマンネリ感はある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・現在法人外への研修は取り組みが低いが、OJTなどを実施しつつ取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・取り組みは低い。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・契約前に本人の包括的な情報収集をし、円滑に利用していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・担当者を決め、窓口を一本化することによりスムーズにやり取りできるようにしている。また、職員から個別にヒアリングを随時行い、情報収集に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・そのように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・残存能力や志向を事前に調査し、その能力に応じた家事等をしていただけるようにしている。現在全体的な介護度が上がり、協同の度合いは低下している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・働きかけてはいるが、家族によりばらつきが有り概ね反応は低い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・前に利用していた事業所に訪問することもあり、一定取り組みはできている。また、昔の職場友達が電話をしたり訪ねてきたりすることもある。	日々の関わりの中で聞き得た話や希望を基に生まれ育った場所を訪れたり、自宅付近をドライブや趣味の競馬場に行く等馴染みの場所への支援を行い、家族の協力を得て親戚の集まる自宅に帰る際は準備の支援をしています。また昔の友人や同僚の方の来訪があった際は居室で椅子やお茶を出し過ごしてもらっています。また手紙や年賀状のやり取りや電話の取り次ぎも行い馴染みの関係継続を大切にしています。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・そのように対応しているが、認知症度合いや住変状況にばらつきがあり、思うような成果は上がっていない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了後もフォローアップを行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・契約書にその旨明記し、実践している。	入居前にホームに来てもらい本人と家族の面談を行い生活歴や趣味、希望等をフェイスシートにまとめています。利用していた施設やケアマネジャーからも情報をもらっています。入居後は関わりの中で知り得た情報や思いは介護記録に記載し、思いの把握が困難な場合は日々の中で職員間で話し合い本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・そのように対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・そのように対応している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケース会議等を通じて実施している。随時新しい取り組みを介護支援専門員にすぐに提案出来る環境にある。	本人や家族の意見とアセスメントを基に一人ひとりに合った介護計画を作成しています。評価は毎月行い基本的に6ヶ月で見直しをしていますが、変化があった際や退院等の際は随時の見直しを行っています。見直しの際は再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催し、本人や家族、医師の意見については事前に聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース会議等を通じて実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ニーズの把握、実践に努めているが、認知症が重度の方が増加し、思うように把握できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・運営推進会議等を通じて、地域資源の把握に努め、極近隣のパン屋さんに一緒に買い物に行ったり、喫茶に入ったりすることが増えつつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・可能な限り在宅時のかかりつけ医にそのまま往診、通院等の依頼をしている。	利用者はこれまでのかかりつけ医を継続し往診を受けており、ホームの協力医は24時間連絡可能で随時の往診もあります。その他の病院についても連絡可能な体制が取られています。認知症病院等その他専門医への受診は職員が対応しており、歯科は必要に応じて往診があります。また週に2回看護師の訪問があり健康管理の他嚥下体操等も行ってもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護ステーションと契約を行い、協働での作業は増えつつある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・窓口を一本化することにより円滑な対応を行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・そのように対応している。地域の関係者との協議はまだ行っていない。	状態の変化があれば医師と家族、ホームの三者で話し合い、重度化した場合に対する指針に沿って個々の状況に合わせて書面を作成し支援しています。看取り支援はしていませんが利用者や家族の希望に合わせて出来る限り長くホームで過ごしてもらえるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・まだ取り組み方は低い。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・現在運営推進会議で議論中であり、マニュアルを見直しつつある。	年に2回夜間想定で自主訓練を行い、初期消火や通報訓練を行い、消防署に報告をしています。近くに河川がある為台風の際は水位を確認し2階へ移動を行ったり、建物の耐震等の調査もしてもらっています。地域との連携については自治会や民生委員に連絡する話が出来ています。また食料や備品等備蓄がなされています。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・そのように対応している。	虐待に関する研修の中で尊重やプライバシーについても学んでおり、言葉かけは命令口調にならず、利用者との関係性を大切に他の人が聞いても不快にならないよう管理者は職員に話をしています。利用者一人ひとりに合わせて温かみのある対応に努め、同性介助の希望があれば対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・好みや嗜好に対し、随時意向を聞くようにしている。宅配食のシーンや外出時に顕著である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・声掛けはしてるが、本人の好みのリズムを重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人の好みに任せており、意思表示ができない人は、各衣類がローテーションで組み合わさるように工夫している。。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・買い物や茶碗ふき、洗濯物畳みなど参加できる家事には参加していただいている。	献立は利用者の好みを聞きながらホームで立て、買い物は時々利用者も一緒に行き、調理師の職員が作り、利用者には下膳や洗い物等できることに携わってもらっています。職員は食事介助があるため介助後に同じ食事を食べています。月1回夕食でイタリアンや和食のケータリング利用や旬の魚の仕入れ、菜園の野菜の収穫、また喫茶店にケーキを食べに行く等食事が楽しみな物になるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量や水分量に留意が必要な人については把握、量の増減を試みている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・2回／日の口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・おむつは一切使わず、すべて声掛け、誘導で対応している。夜間は必要に応じてパット交換のみの場合もある。	排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、間隔を確認しながら手引きでトイレへの誘導を行っています。支援の継続により失敗が減り、介護度が高い方が多い中夜間も含めおむつの利用は無く、ケア会議や申し送りで利用者一人ひとりの支援方法を話し合っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・繊維質の高い食事内容を考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・連日はいる方もおり、数日空く方もいるが、おおむね3日に1回は入れるようにしている。	入浴は週に2回午前中の時間帯で出来るだけ湯船に入ってもらえるよう支援しています。希望で回数を多くしたり、午後の時間帯に入ってもらう事もあります。現在入浴拒否する方はおらず、菖蒲湯や柚子湯等入浴が楽しめる工夫をしながら無理の無い入浴につなげています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・睡眠サイクルの把握に努め、そのように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内容につき担当者が把握するようにしている。投薬内容が変更された場合は全スタッフに通達できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・そのように対応している。一日のうち一定のレクリエーションや機能維持訓令等ができる時間を設けるなど工夫するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・大規模なレクリエーション外出より、細かなニーズに対応した外出支援を実施している。	週に1回の散歩や食材の買物に出掛けたり、ホームの菜園の水やり等の外気浴をしています。初詣や桜の花見、地蔵盆、敬老会等の季節毎の外出や映画村や嵐山へのドライブ等少人数で出掛けたり、希望にそって個別で馴染みの場所にも出掛けています。また家族の協力を得て自宅に帰る方もおり外出の支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人が金銭管理をしている利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・随時施設の電話を開放している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・そのように対応している。	ホームは丈夫なログハウス造りで天井は吹き抜けになっており冬に使用している暖炉もあり、リビングでは利用者全員がゆったりと座る事の出来るソファや椅子が多数置かれています。同じ空間で少し離れた場所や食堂で過ごす事も出来利用者の状況に合わせています。毎月利用者と一緒に作成したカレンダーと貼り絵を掲示し季節を感じてもらったり、大型の空気清浄加湿器を置き、温度計での確認や利用者の体感を聞きながら温度調整を行い快適な空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用書同士の好悪を把握し、そのように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・そのように対応している。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうように伝え、利用者はテレビやタンスを持ってきており配置は本人と相談しながら行っています。また大切にしている仏壇や遺影を側に置いている方や居室で本や雑誌を読む方もいます。居室は畳やフローリング仕様で広さは様々で窓も多く、天窓のある居室は簾で光の調整をし居心地良く過ごしてもらえるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・そのように対応している。		